

冬日和の美術

千葉市美術館所蔵名品展

一九九九年一月一六日(土) — 二月一四日(日)

開館二〇時—一八時 毎週金曜日は二〇時まで 入館受付は三〇分前まで

入場料 一般二〇〇(六〇)円 大高生五〇(三〇)円 中小生〇〇(八〇)円

()内は三〇名以上の団体料金 毎週月曜日休館

千葉市美術館

二六〇—八七三三 千葉市中央区中央三—一〇—八
ご案内 NTTハローダイヤル〇四三—二二七—八六〇〇
写真 真 千葉市美術館から見える冬景色

冬 日 和 の 美 術

清冽のリリズムム

冬が深まると動物も植物も活動が不活発となり、更に薄雲に覆われた毎日が続けば私たちの心持ちも何処か鬱々としてくるものです。美術でも冬景色には孤独の影がつきまといます。しかし冬の小春日和に安息を覚えるように、そのような季節だからこそ、私たちの内心は叙情的な表現には鋭敏に反応するのではないのでしょうか。不幸に見舞われた人、大きなトラブルを経験した人は暫しの後に心優しくなると聞きます。また職を失った人が無為の時を過ごした後に初めて窓外に目を向け、自然の営みの豊かさを知ることがあるそうです。

現代の芸術は抽象的で、一見取り付くしまらないような寒々とした表現が多くあるものです。しかしそのような表現も、寡黙だからこそ、耳を澄ませば内にリリカルなメッセージを秘めていることがご覧頂けることでしょう。

会 期 1999年1月16日(土)―2月14日(日)
開館時間 10:00―18:00(入館は17:30まで)
入 館 料 毎週金曜日は10:00―20:00(入館は19:30まで)
一般200(160)円／大高生150(120)円／中小生100(80)円
()内は30名以上の団体料金 千葉市内の小・中学生は第2・4土曜日無料

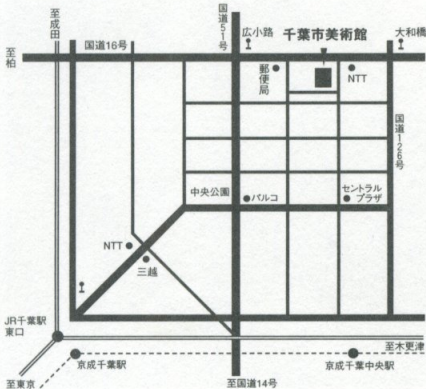
問い合わせ NTTハローダイヤル 043-227-8600
今後の催し 第30回千葉市民美術展覧会 2月27日(土)―3月19日(金)

講座 現代の美術と親しむ

とかく分かりにくいと言われる現代の美術を、これから楽しみたいという方のための講座です。普段から理屈っぽいのは嫌いな先達3人が、現代美術の楽しみを分かりやすく語って下さいます。どなたでもご参加下さい。(無料)

- 2月6日(土) おしゃべり学芸員 現代美術を語る
この職にたどり着くまで転職すること数十回。豊富な人生経験から美の楽しみを語る。
話し手 川村記念美術館 沼辺信一
- 2月7日(日) 画廊は少しも怖くない
キャッチパーのように入りにくいのがギャラリー(画廊)。本当はこんなに楽しいのに。
話し手 ギャラリスト 小山登美夫
- 2月13日(土) 私流 現代美術のある人生
美術の素人がウォッチャー(受け手)として開眼。現代美術が人生をこんなに豊かにする。
話し手 アートウォッチャー 難波 進

*各回午後2時より 於千葉市美術館講堂(11階) 各回とも先着約40名様まで。
*詳細は千葉市美術館までお問い合わせ下さい。043-221-2311(代)



- 【交通案内】
■JR総武線千葉駅
●東口より徒歩約15分
●京成バス大学病院行き(のりば⑦)「大和橋」下車 徒歩約2分
●京成バス矢作台市営住宅・川戸行(のりば⑦)あるいは小湊バス八幡宿行(のりば④)「広小路」下車 徒歩1分
●無料巡回シャトルバス「チーバス」(のりば⑨)「中央区役所・美術館」下車 (11:05―18:35の毎時05分と35分に発車、水曜運休)
- 京成千葉中央駅より徒歩10分

*なお来館者用駐車場が少ないため、自家用車のご来館はご遠慮下さい。

岡田米山人「竹林七賢図」1808(文化5)年



上阪雅人「田園風景」1920(大正9)年頃



宮島達男「地の天」1996(平成8)年

